

1. せいし幼稚園の教育目標

子どもたちが遊び（直接体験）を通して、自分で考えたり、学習したり、行動できる子どもに育つこと。そして、そのような子どもが育つ環境を整えることにより『健康で明るい子ども』『創造する子ども』『情緒豊かな子ども』が育つことを教育目標に掲げている。

2. 令和4年度に重点的に取り組んだ目標

- ① 本園の教育計画の改善
- ② 研修計画の見直し、資質向上への取り組み
- ③ 施設設備の安全点検と整備、改善
- ④ 職員の長期雇用と新規雇用の拡充のための職場環境改善

3. 令和4年度の自己点検・自己評価項目と結果について

保育計画と内容	保育課程、また年間指導計画に基づいて、期・月・週ごとの保育計画が立てられている。また、期毎に反省を行い、その結果は次期、次年度へフィードバックされている。
保育のあり方・子どもへの対応	全体、また学年ごとで常に保育については検討され、また子どもたちへの対応や理解についても研究協議を重ねている。
環境の構成	子どもたちが自ら環境に働きかけて活動が出来るような保育環境、安全清潔な環境構成を目指して努力している。 また新型コロナウイルス感染症対策の為、子どもが使用するおもちゃや教材（机、椅子）等の消毒を徹底している。 設備面ではAEDの導入、園庭の大型遊具の買い換えを行っている。
教職員相互の協力・連携・役割の在り方	学年主任・副園長・園長で構成される主任会会議を毎週水曜日に開き、その週の子どもたちの状況把握や予定、協力役割体制の確認が行なわれ、その結果は、確実に各教師個人へ伝達されるシステムになっている。
研修・資質の向上	園外のほか園内研修の充実を目指し、園内、園外研修を年間17日間、延べ180名の教師が研修を受けた計算になるが、新型コロナウイルス感染症の影響で園内研修やwebでのオンライン研修がほとんどである。 令和4年度中は前年度に比べると対面での研修への参加も叶ったが、研修を受ける機会自体が以前より減少している。
保護者への対応と家庭支援	毎月保育相談日を設け、その他にも随時、毎日の連絡帳などで、子どもの様子や問題点については相互理解を深めるよう努力している。 また、預り保育事業を実施し、開園日は延べ178日間3,750名、長期休み期間には延べ45日間896名が利用した。 その他、月に一度在園児親子を対象に園庭開放を行っている。 子育て支援の一環としては、年間52回の親子教室を実施、延べ358組の親子が利用している。また、年間4回の体験入園を実施した。

4. 本園の総合的な評価結果と今後の課題

自己点検、また評価結果については、全ての評価項目で改善を要するものは見られなかったが、新型コロナウイルス感染症の影響により例年通りの保育計画ができなかったり、研修への参加が難しい状況が続いた事で、一部検討を要する項目が例年よりも見られる結果となっている。この結果をもとに次年度の教育、また運営の体制を整えたいと思う。
全国的に幼稚園教諭、保育士の人手不足は問題となっており、当園でも人材の確保については深刻な問題である。次年度も人材の確保と職員の保育以外の時間の使い方、働き方の改善は急務であると考えている。今後は十分な人員を確保した上で、園内、園外研修を通して保育者の自発性、自主性を高め、子ども達により良い環境と保育の提供ができるよう努めていきたい。
今後も感染症対策を徹底しつつ保育を継続していくために、ICT等を活用し職員間で情報を共有し意識を高め、子ども達への呼びかけを引き続き行っていく必要がある。

5. 学校関係者評価委員の評価

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、園外、園内研修の減少や参加しにくい状況が続いたこともあり、職員同士の連携や資質の向上が不十分であった点を除き、自己点検、評価については適当であると認められた。
教育内容については、教育目標により編成された教育課程また指導計画に基づいて行われる当園の教育に対して高い評価が得られている。また、コロナ禍での対応についても一定の評価が得られた。
子育て支援のための延長保育や預り保育の充実を図り園児募集定員枠の拡大を目指すため、また保育の質をあげるための人材確保、保育者の長期雇用と新規雇用の拡大に向けた取り組みについては一定の理解を得られたが、今後は更なる取り組みが必要との意見が具申された。
加えて、園での感染症対策や防災、事故防止、その対応等の取り組み等の情報発信についての要望、進言があった。